



令和6年12月1日
有松まちづくりの会

有松まちづくりの会役員会 (11月25日)

新役員として山田剛生さんが会計を担当される事が承認されました。中濱会長より前月に追加して全国町並みゼミ東京大会の報告があり、次回は台北で開催されるとのことです。

「有松を語ろう会」での意見を基に、短期的・長期的に実施する具体的項目について検討しました。また、有松まちづくりの会の活動を支える資金について、他団体から学び増やす努力をしていく事としました。



(花屋Luore提供)

今月の花 ポインセチア

第2回 岡家住宅の活用に向けたワークショップ (11月6日)

日本遺産有松のガイダンス施設として岡家住宅をどのように活用すべきか。2回目のテーマは「文化観光の取り組みをいかに進めていくのか」。つまり、「絞り・町並み・山車という文化資源を活かした観光にどのように取り組んでいくのか」ということ。3班に分かれて話し合いが行われた。

全体の傾向として、「伝える」「学ぶ」がキーワード。それらを「見せる」という過程を通して理解を深めることができると言う。近隣住民や子供への働きかけから始めたい。その拠点が岡家住宅。

最後に補足として、「これら取り組みの人材育成こそが重要だ」との栗並秀行氏(歴史まちづくり推進課)のご指摘に耳を傾けたい。整備終了後、岡家住宅は指定管理者による運営が予定されているが、できれば地元のグループが担い手になればと切に願いながら取材を終えた。次回開催は来年3月を予定。



名古屋市・名古屋鉄道主催 有松・熱田のまちめぐり (10月1日~12月15日)

今年も絞り体験付き切符が販売された。参加者の様子取材させていただいた。

■ 有松しぼり体験きっぷ (写真左 11/4)

絞会館2階では10名が雪花絞りに挑戦中。5名はハワイからの観光客。講師の説明後、無言で集中して布地を折りたたんだり棒に巻き付けたりとしていた。出来栄には大満足。絞りの歴史についても講師 久野剛資氏の熱い語りがあった。

■ 有松工房満喫きっぷ (写真右 10/14) この秋オープンの糸和(いとわ)では、皮の絞りでポケットを作りトートバッグに縫い付ける作業をしていた。写真は完成見本と染められた皮を切り抜いているところ。素材へのこだわりを店主 佐藤貴広氏からじっくりと聴くことができた。



芸術の秋を満喫 in 有松

豊田信行切り絵展①



竹田家住宅のつくばい

豊田信行切り絵展開催 (10月2日~11月29日)

切り絵作家 豊田信行さんの作品展が名古屋有松郵便局で開催。前期に天満社秋季大祭でのからくり人形や山車まつりの様子を、後期には"竹田家のつくばい"等(右写真)延べ18点が展示された。

「多くの来局者が楽しまれていました。切り絵展のみに来局の方も多々いらっしゃいました」(立川局長談)とのこと。細部までこだわった作品を見て、

すっかりファンになった方も…来年3月の"まちなみ美術館"でも豊田さん(写真左)の切り絵が楽しめるそうです。



木の箱と器 by Koburi (10月12日~14日)

於:六弦とコットン

有松出身の榎原史也氏の展示販売会。「木工品は有松によく合う」と3回目の開催。現在、大垣で木工房を開設。木への愛情が半端じゃない。制作での苦労話を実に楽しそうに話される。会場で目に飛び込んでくるのは曲げ物のお弁当箱(実は小物入れ:写真中央)。繋ぎ目がツバメの尻尾のようでかわいい。手作り感満載の作品がいっぱい並んでいた。



伝統工芸ワークショップ2024 (10月12日)

於:川村家住宅西蔵

NPO法人あいちヘリテージ協議会の主催で、今年も蒔絵体験が行われた。伝統工芸士 清水延一氏の分かりやすい指導で参加者も満足そう。漆の代わりに合成樹脂を使うなど取り組み易い工夫がされているとのこと。「気軽に伝統工芸を楽しんでほしい」の言葉通り、参加者は生き生きと制作に励んでいた。併せて有松絞りの香り袋づくりもされていた。



カーヌーンコンサート (10月26日 T-Ryujyu・27日 六弦とコットン)

いずれの会場でも10名程が飲み物片手に至極の時間を堪能。カーヌーンは言わば中東琴。音色は大正琴に似ているという。懐かしいメロディーの選曲もあり、参加者は奏者 森山有理さんの奏でる音色に溶け込むように聴いている。会場は東海道沿い、向かいの重厚な建物とあいまって、カーヌーンは妙に有松に合う。



こうだといいな展 (11月1日~3日)

於:六弦とコットン

期間中常に若い人で込み合っていた。ジブリの世界に迷い込んだような感覚。制作者の名木山(なぎやま)景さんにお伺いすると「アイデアが浮かぶと帽子から草が生えてくる。猫好きで、より意思疎通できれば…」と解説してくださった。こちらまで楽しくなってきた。本職は名古屋学芸大学デザイン科の先生。慕う学生さんが多いのも納得できる。



秋の有松 フンカサイ

- 「絞り」「瓦」灯りストリート(10月21日～27日)NPO法人コンソーシアム有松
数年前より、有松駅と東海道を繋ぐ"山与遊歩道"に灯りが灯されるようになった。いわば秋の到来を告げる風物詩とも言うべき取り組みである。設置にはたいへんな手間と労力がかかっているが、末永く続くことを願っている。



- 晩秋の有松を彩る・いけばなストリート (10月26日・27日)

竹田嘉兵衛商店では、店内・屋敷内いたるところに絞り・いけばな・きものが展示されていて、さながら美術館にいるような気分させられた。とりわけ異才を放っていたのは”いけばなストリート展2024”。



作品の多くは竹田家住宅内に飾られ「素晴らしい」の声があちらこちらから聞こえてきた。他にも松柏苑で展示がされていた。

- ふわっと秋風ー五感で楽しむ有松ビュツフェ (10月26日・27日) 於:モスアリマツ

企画された国際ファッション専門職大学の可児直之教授にお話を伺った。「授業の一環として学生に有松の町や、伝統工芸が今に活かされていることを学んでほしいと企画した。学生が制作した小物や衣装をみていただければ」と。



会場のモスアリマツは、有松でのレンタルスペースの"走り"。絞りなど有松が培ってきた文化を継承していくたにの欠かせない場といえる。安藤来助商店の離れ(明治初期の建築)を改装したもので、古民家利活用の先進事例でもある。また、屋外の切通し沿いには”ミチアカリ&いけばなストリート”の展示物(写真下)が設置されており、夜には花が生けられ灯りがともされ見学者が多く訪れていた。

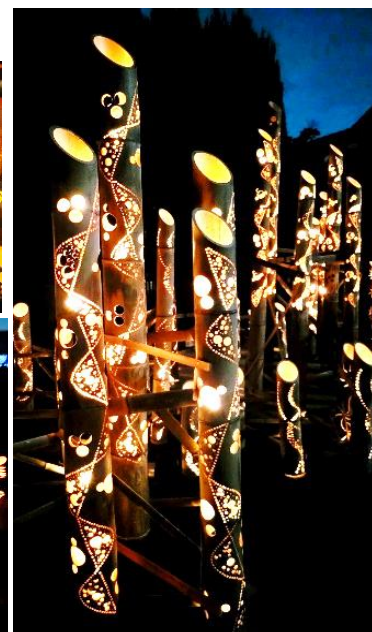
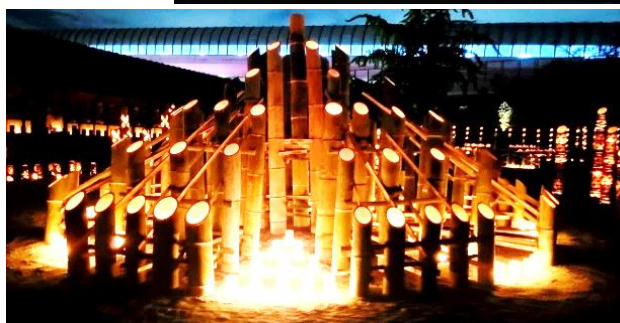


- 有松ミチアカリ (10月26日・27日)

名城大学の学生さんを中心に代々取り組まれてきた。1か月前には302号高架下で制作開始。「年々女子の比率が高まっている」と副代表の岡田ひなたさん。



西町と祇園寺境内には幻想的な光景が出現し多くの人が見学に訪れていた。

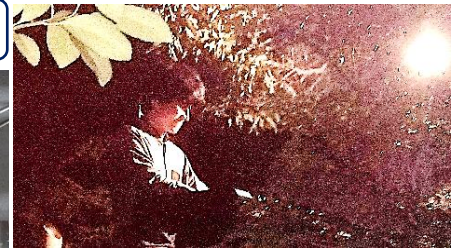


設置風景

～秋の有松を楽しむ～ in 竹田家住宅 (10月26日・27日)

▶ モダン雅楽の公演(10月26日)

竹灯りに照らされたお庭で笙の音色を参加者は楽しまれた。書院からの眺めはまさに非日常の幻想世界、この1時間を堪能されよう。



▶ お茶室で一服(10月26日・27日)

14代将軍家茂が訪れた"裁松庵"(写真右)でお抹茶と和菓子を味わっていた。多くの方が参加され、歴史ある癒しの空間に浸っていた。秋の深まりとともに色づく木々が茶室をより魅力的に。



▶ いけばな体験会(10月27日)

三番蔵では、いけばなの美に触れる体験会が行われていた。参加者の外国の方はじっと講師の手元を注視し、「何一つ見逃さないぞ」とでもいうような構えだった。



有松町家ライブ 有松 茶の湯 二胡ライブ (10月26日) 於: 棚橋家住宅

二胡は人間の声に近い楽器と言われているそうだ。参加者約20名が曲に酔っていた。奏者の中村ゆみこさんはこれまでも有松での演奏経験があり「東海道を歩いてね」と勧めてくれるのがうれしい。お茶席とのセット企画も有松らしい。



Fiamenco Guitar 佐久間瑛士

翌日の10月27日には **秋の奏 Super Acoustik Session** が行われた。Guitar 荒川岳大 Violin 高橋誠

アリマツマーケット (10月27日) 於: 有松天満社

天満社の上の広場・下の広場などでは多くの出店やキッチンカーが出され、若い親子連れで賑わいを見せていた。



晩秋のお茶周りの小物展 (11月1日～3日) 於: 中濱商店レンタルスペース有松小町

有松ではレンタルスペースが少しずつ増えてきている。中濱商店でも駐車場の一角で、写真のような古布から手縫いのでつくられた茶杓袋などお茶周りの小物が所狭しと展示されていた。実に東海道沿いに合った企画。思えば、現在ほとんどが非公開であるが、有松には10か所ほど茶室が残されている。長い歴史に彩られた有松の文化が垣間見えるようでもある。



みどりシティフェスティバル2024にて有松を紹介 (10月26日) 於: 大高緑地公園

多くの区民が集った大高緑地の一角で、重伝建の町並みや日本遺産のまち有松をPRした。テントには有松の美しい町並みや重厚な町家の紹介パネルが所狭しと並べられ、訪れた方々に法被姿の担当者5人が町並みの素晴らしさや有松が日本遺産に認定されていることなどを伝えていた。不思議な"お日様染め"の絞り染色体験にも皆さん興味を示されていた。



やっとかめ文化祭DOORS まち歩き 日本遺産のまち有松 (10月27日)

参加者は定員の15名。非常に熱心な方が多く、メモを取りながら案内を聴いておられる方も少なくない。竹田家茶室見学では14代将軍家茂が座った空間を堪能されていた。「もう少し落ち着いた雰囲気の中でゆったりと紹介したかった」と案内されたあないびとの会 武田憲三さんは仰っていた。



あいちのたてもの博覧会 有松開催 (11月2日)

今年の"あいたて博"には、有松地域では新たに岡家住宅が参加。江戸末期建造、有松で最大級の建物を建築士望月義伸氏の案内で見学した。丁寧な説明に参加者15名はメモを取ったり質問をしたりと忙しくしていた。「天井をよく見て。電気の前は灯りは下からでした」との説明が印象に残る。



左上:岡家住宅

中濱商店では店主の中濱豊氏が主屋や店蔵・裏門・茶室などを案内されていた。

左下:棚橋邸

棚橋家住宅では、三井富雄氏より主屋改築とその後の活用等についてのスライド上映があった。

右:中濱商店



名古屋商科大学 有松現地研修 (11月4日)

先生・学生など17名が訪れた。有松の歴史・町並み・生産現場や販売の様子など各自の関心に合わせて5グループに分かれて実施。生産現場を訪問する班に同行。"彩 Aya Irodori"(写真上)では、製品と絞り体験を見学。店主の丁寧な説明に、今日的な生産現場への理解を深めていた。"糸和"(写真下)では、皮という素材の扱い方の工夫について学んでいた。移動中の町並み案内や岡家住宅見学を含め約2時間半の行程であった。最後に絞会館で伝統的な括り作業の実演を見学され、400年に渡る有松での絞り生産に触れることができたのではないかと思います。



この取材を通して、有松の今後について可能性に気づかされるとともに、生産者の熱い想いに触れることもできた。見学・取材へのご協力に感謝。



重伝建地区 近江八幡市 から研修ツアー (11月9日)

ステキなお客様をお迎えできた。同じ重伝建のまち近江八幡から30名、あないびとの会3名で約2時間のご案内。皆さん目的意識が高く地元でガイドしている方も含まれ、有松あないびとも多くの学びがあったようです。案内をされた山村幸雄さんは「やりがいがあった」と、次のように語って下さった。

「私が近江八幡に数回行ったことを話すと、お客様との距離は直ぐに縮まった。お客様の有松の感想は"まちがきている"、"ほんまもんだ"。この日の有松は賑わっていた。山車会館や岡家住宅ではあないびとの会の会長や当番がテキパキと対応。絞会館での伝統工芸士による絞り実演にも惹かれたようだ。

その結果の言葉である。今も人が住み絞りを販売し、ぬくもりがあるまち。お客様目線で有松が輝いて見えたのでしょう。側溝のゴミにも気づかれたのもさすがです」。



近江八幡の様子

<一口メモ>

豊臣秀次によって城下町として建設され、後に近江商人の商業活動の中心として発展。碁盤目状の町割りと江戸時代を通じて活躍した八幡商人の居宅や旧宅など個性的な意匠の町家が保存されている。

有松小学校創立150周年記念 作品展 (11月15日・16日) 於:有松小体育館

学年ごとのテーマに沿った作品が展示。
圧巻なのは吊り下げられた絞り手拭いです。
学年毎に異なる色に染められ、様々な技法
で模様が施されている。入口には150年の
歩みが校舎や校庭での人文字の写真で紹介されていた。11月20日には、この会場で150周年記念式典が開催された。



連載

有松にお店を構えて①

MARUKI

バス駐車場近く、いわば有松の南玄関にあるお店。
客足が絶えることない人気店。立地の良さだけでなく
店主の包み込むような笑顔が魅力のお店です。

▶ どうして有松にお店を構えることにしたのですか？

どんどんスピードが加速していく世の中ですが、有松ではゆったりとした時が流れています。町並みや絞りなど時間をかけて生まれたものに触れ、温かさや幸せを感じるからでしょうか。このような場所で一人一人を想いお茶を淹れることができたかと、お店を開くことにしました。



▶ これまでのご苦労や喜びは？

小さなお店なので、座るスペースや商品の陳列・お客様同士の距離感など少し悩むこともありましたが、お茶を飲みリラックスしていただけるよう工夫しています。内装の杉の木の香りにも気づいていただけたら嬉しいです。お届けしたいものを厳選し、お茶に合わせたペアリング商品を置くことで季節感を出すこともできました。小さなお店だからこそ、お客様同士のお話が飛び交う店内。心温まり喜びを感じています。



▶ これからのこと、こんな町になって欲しいという願いは？

有松の町並みや絞りが次の世代へも繋がってほしいと心から思います。この町の一角でほっと一息つけるお店として成長していけたらと思います。

営業時間 9:30~18:00 / 定休日 水曜日・第2・4火曜日

MARUKI 日本茶と自然派おやつのお店です。

催事・行事予定

- 12月8日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 12月16日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 12月16日(月) 19:00 有松秋葉大社祭 祇園寺
- 12月22日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 12月23日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 コミセン
- 12月29日~1月5日 コミセン休館
- 12月31日(火) 22:00 迎春カウントダウン 有松天満社文嶺講
- 1月1日~3日 9:00 初詣 有松天満社文嶺講

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

豊田信行切り絵展 ②



有松・祇園寺

《編集後記》 11月も多くのの方が有松に来てくださった。中には「絞りのまち」「重伝建のまち」と目的意識をもって来られる団体もある。まちづくりを更に進めたい。